

# 学びを チカラに

東京学芸大学との教育交流と「全国学力・学習状況調査」  
「児童生徒質問紙調査」の結果についてお知らせします。

## TOPIC 1 東京学芸大学と教育交流

市教育委員会は東京学芸大学と連携し、教員や学生の相互派遣を通じた学力向上に取り組んでいます。

### 市内の教員・東京学芸大付属校を視察

6月25、26日の2日間、市内小中学校の教員15人が東京学芸大学付属大泉小学校および小金井中学校を視察しました。大泉小学校では、6年生の授業を視察。この授業は教育実習生への模範授業を兼ねており、大学生ら約100人も参加しました。同授業から、児童の思考に「一



東京学芸大付属小金井中学校を視察する小中学校教員

貫性をもたせること」や授業のメリハリが大切であることを学びました。また小金井中学校では、3年生の授業を視察。同校では、教材研究の重要性と授業には生徒自身が考える場が必要であることを学びました。

### 東京学芸大 出口利定学長・二戸で講演

7月31日開かれ、小中学校の教員ら約200人が参加しました。同会では出口利定学長が「次世代育成教育の展望」と題して講演。「これからの社会はグローバル化が進み、一層の知識基盤社会(注1)となるだろう。次世代を担う子供たちに必要なのは「考える力」。この力を養うためにはコミュニケーション、会話が重要。インターネットに依存した文字情報



東京学芸大の学生、市内の児童生徒を学習支援

のやり取りだけではなく、人と対話をすることで血の通った感情の育成や「聞く力」を育ててほしい」と話しました。(注1) 知識を生み出し、加工し、使いこなす、人々が伝え共有することで動かしていく社会

### 東京学芸大の学生・二戸で学習支援

学生13人が8月5、7日の3日間、当市を訪れ、「サマー・スタディ(合同学習会)」を開催しました。同勉強会には市内小中学生延べ220人が参加。大学生は、児童生徒の表情や進度を見ながら話掛け、疑問に回答しながら自主学習を見守りました。参加した生徒は「学校の授業は自分からなくても進んでしまいうけど、大学生は分かるまで教えてくれた。どこまで理解できているか聞きながら

### 市内の教員・東京学芸大で公開講座を受講

東京学芸大学短期研修は8月5、7日の3日間行われ、市内小中学校の教員4人が受講しました。勝山浩司副学長による講話、食物アレルギー対応の最新事情、理科教材に関する講座など先進的かつ専門的な教育を学びました。

### 市内小中学校教員・道徳セミナーを受講

道徳授業パワーアップセミナーは8月10日、東京学芸大学で行われ、市内小中学校の教員3人が受講しました。道徳が教科となることから「評価基準はどうするのか」など、具体について先進的に学びました。なお研修報告は9月30日、福岡中学校を会場に行われ、研究会では東京学芸大付属小金井小学校の遠藤信幸教諭より助言を受けました。

### 東京学芸大学付属校の教員・二戸で出前授業

優れた指導で定評のある教師を招き、範となる授業を示してもらおう本出前授業は8月28日行われました。ことしは東京学芸大付属小金井小学校の高橋丈夫教諭を招き、石切所小学校で実施。市内外の教員ら41人が出席しました。次回は、11月4日に金田一中学校で実施予定です。

## TOPIC 2 子どもが学力を伸ばしているか

小学6年生および中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査(以下、「全国学調」)は4月21日、市内の全小中学校で行われました。調査科目は国語・算数・数学、理科の3教科。この結果から見えてきた学力の状況などを紹介します。

### 学力向上推進事業とは

全国学調は平成19年度から実施されており、当時の学力結果は全国平均を下回っていました。そこで市教育委員会は算数・数学分野を重点指導教科と定め、平成23年度に「学力向上推進事業」を立ち上げました。結果、平成25年度県が実施した学習定着度状況調査では、小学校4、5年生の国語、算数、理科など実施全科目で県平均を上回りました。

### 小学生「国語」で成果

国語の学力は近年、小中学校ともに全国平均を上回る状況で推移しています。なお特筆すべきは、応用問題(いわゆるB問題)の正答率が全国学調開始以降、最も高くなったことです(図1・2参照)。

### 小学生「算数」で成果

算数における課題は改善されつつあり、基本問題(いわゆるA問題)は近年、全国平均を上回る状況で推移しています(図1参照)。

### 中学生「数学」は課題

数学は、岩手県全体の課題ですが、当市もなかなか全国平均を上回ることが難しい状況です。なお、年度により難易度や数値にばらつきがみられますが、概ね改善に向かっていけるといえます(図2参照)。

### 中学生「理科」で成果

理科は、平成24年度に実施されて以来3年ぶりの調査となりました。小中学

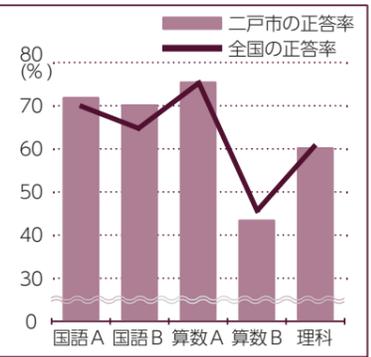
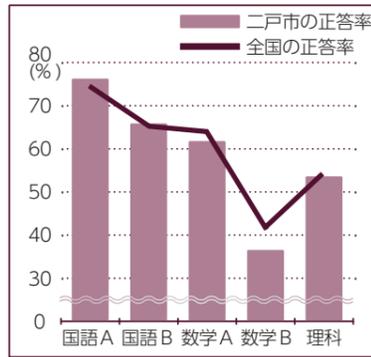


図2. 2015年度全国学調による全国と市の正答率の比較について (中学3年生)

図1. 2015年度全国学調による全国と市の正答率の比較について (小学6年生)

### 継続は力なり

学力は、知識の量やテストの結果など「見える学力」と、点数で表すことが難しい学習意欲や考える・判断する力などの「見えない学力」に大別できます。市教育委員会は、この見えない学力も大切に、今後も継続して授業改善の取り組みを実施します。

### 学びの習慣を身につける

児童生徒の健やかな成長と学力の向上には、基本的な生活習慣の定着と学びの習慣づくりが大切です。

### 中学3年生の学習時間が少ない!

中学3年生が、1日に2時間以上学習する割合は、全国や岩手県に比べて低い状況でした。さらに、昨年度の中学3年生より低くなっています(図3参照)。

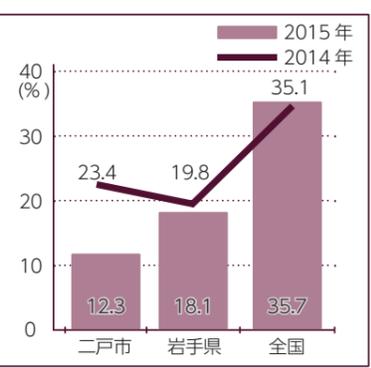


図3. 1日当たり2時間以上勉強している中学校3年生の割合 (%) について

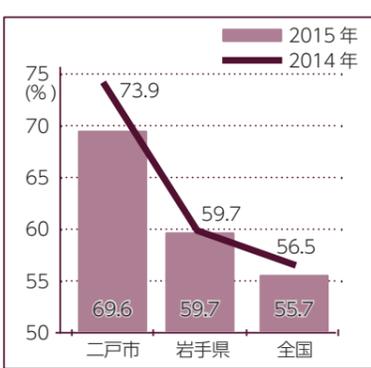


図5. 1日当たり2時間以上テレビを視聴する割合 (%) について (中学3年生)



図4. 1日当たり2時間以上テレビを視聴する割合 (%) について (小学6年生)

### テレビを見過ぎ

「1日にテレビなどを見る時間」について、2時間以上と回答した小学6年生の割合は、昨年度より減少したものの、全国や岩手県の割合を依然超過しています(図4参照)。中学3年生も同様、全国および岩手県の平均を超えています。また、ことしの中学生は、小学生よりもテレビを見ている割合が高いことも気になります(図5参照)。